

ETC 利用の共同荷さばき駐車場 (社会実験) の紹介

— 中心市街地の活性化を目指して —

ITS 統括研究部 浦野 隆

REPORT ③

1 背景と目的

愛知県豊田市では、交通まちづくりの一環として、ETC を利用した路外の荷さばき駐車場を整備し、本格運用を前提とした社会実験を実施している。放置駐車車両取り締まりの民間委託制度のスタートに合わせて、新しいビジネスモデルの事業化の可能性について検証することを目的としている。



大型商業施設周辺での駐車状況

2-2 地球温暖化の防止と安心・安全な街づくり

路上での荷さばき車両のアイドリング駐車や、ゴー・アンド・ストップを繰り返す集配作業車両（速度低下）がもたらす排気ガス問題を解決することにより、地球温暖化の防止に貢献することにより、路上駐車をなくすことにより交通の障害要因が排除され、安全・安心な街づくりにも貢献する。

2-3 集配作業の効率化と ETC の普及支援

物流車両に対する駐車のための物理的な空間を提供するだけでなく、駐車料金のキャッシュレス化とノンストップ

化により、時間との勝負が要求される集配作業の効率化が実現できる。新たな機能を具備する路側機器を設置することにより、物流車両への ETC 普及を促すことにも繋がる。

3 社会実験の概要

3-1 実験期間

平成19年8月～平成20年3月

3-2 実験場所

豊田市・西町商店街駐車場

3-3 トラックタイム

午前8時～午後8時

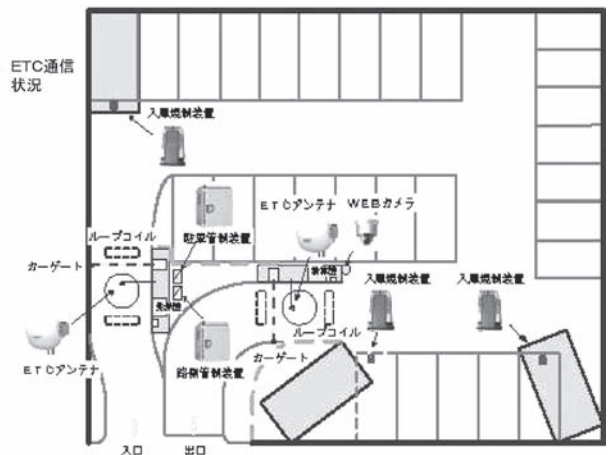
ETCを活用した共同荷さばき駐車場・実証実験(豊田市)

登録車のノンストップ出車の瞬間



ETCアンテナ

駐車場のレイアウト



2 荷さばき駐車場整備のねらい

2-1 中心市街地の活性化と道路空間の有効利用

地域における魅力ある生活物資のタイムリーな供給と観光の振興により、中心市街地の活性化を実現するとともに、道路空間を有効利用しつつ来訪者の回遊性を高め、活力と魅力ある街づくりを推進する。

3-4 荷さばき駐車台数

3台

3-5 運用方法

- ① ETC 車載器搭載の車両を登録 (ORSE / ID 採用)
- ② ETC 未搭載車は ID カードを暫定発行
- ③ オペレータによる予約受付
- ④ 荷さばき駐車マスに専用ロック装置を設置 (リモートコントロール方式)

3-6 その他

- ① 駐車機器は既存システムの改造で対応
- ② ネットワークカメラにより安全監視

4 社会実験の状況と今後の展開

4-1 学習効果で利用台数が急増

実験がスタートした直後の約2ヶ月

間は、認知度が低いこともあり利用台数はそれ程多くはなかったが、「駐車監視員のガイドライン」の最重点地域に指定された10月からは、前の月(9月)の数倍の利用で推移しており、現在100台以上の利用台数となっている。特に、物流車両の中で宅配便を中心に認知度が高まり、学習効果と相俟って平日昼間の利用頻度が向上している。

4-2 導入効果と今後の展開

利用頻度の向上は路上駐車を減らすことに繋がり、路上駐車による様々な問題(交通渋滞、交通事故、排気ガス)の削減に大きく寄与できるものと期待される。また、ドライバーにとっても安心して車両から離れて作業ができるため、業務効率の向上のみならずサービスの向上にも繋がり、豊田市が目指す中心市街地の活性化にも貢献できるものと期待される。

なお、「ETCを活用した共同荷さばき駐車場」の整備効果をより有効なものとするためには、ビジネスモデル構

築の視点から、今後も引き続き下記について検討することが重要と考える。

- ① 継続的に利用会員を募集する。
- ② ETC 車載器の未装着車への搭載を促す。
- ③ データ検証により運用方法を改善する。
- ④ 効果を測定し有効性を分析する。

5 あとがき

今回の取り組みは様々な効果が期待できることから、京都議定書で謳われているCO2削減目標を実現するための有効な施策の一つであることを、第14回ITS世界会議(北京)で紹介した。

最後に、本実験は実施者である豊田市を(財)道路新産業開発機構が支援する形で実施したことを付記する。